目次

はしがき

昭和61年

大学の自由……2
花祭りの日の随想……4
お勉強と学問……6
第三回日中民間人会議……8
長野県史通史編を読む……10
種痘記念日に……12
灰色の狼……14
教育における「出会い」……16
武漢への短い旅……18
中国の大学改革……20
恐怖論の限界……22
外より見たる日本人……24
伊那谷の四季……26
朝永・ラッセル・アインシュタイン……28
二十一世紀の中部圏……30
追いつけ・追いつくな……32
勝田守一先生のこと……34
モーツァルトと人間科学……36
空白地帯……38
ジェームズ・ワット……40
高校生はたのもしい……42
外国とつきあう法……44

泡沫の三十五年……46
岡麓氏の老境……48
アメリカと日本の間……50
東洋思想と原子論……52
待つ間が花……54
信濃教育会一〇〇年……56
「赤い鳥」のことなど……58
中国教育事情（一）……60
中国教育事情（二）……62
中国教育事情（三）……64
一茶と子規……66
国有鉄道八〇年……68
人権宣言をめぐって……70
心の季節に……72
SDIとアメリカの科学者……74

昭和62年

安全を購う……78
世代の呪縛……80
犬と詩人……82
大博士（だいはかせ）……84
新旧の世紀に生きる……86
みんなでうたう歌……88
共存の未来へ……90
創造的想像力……92
森と人間……94
信毎の主筆たち……96
赤土……98

リンパ球……100
グローバリゼーション……102
資格の実態……104
Kさんの日本発見……106
諏訪の七不思議……108
近衛時代……110
超電導と超低温……112
常識と独創と……114
飯田さんの地震研究……116
もう一人の自分……118
日本の中小企業……120
「ピアニスト無用論」……122
六月二十三日……124
「別れの言葉」……126
渡辺直己歌集……128
ソウルにて……130
天国のとびら……132
白澤の話……134
中部の未来を誰がつくる……136
たくみの里……138
木外忌に……140
中近東——二冊の本……142
岡倉天心の終焉……144
葡萄の秋……146
不断の歯痛……148
ある教育的体験……150
棗（なつめ）……152
松沢さんとアフリカ……154

須田泰嶺のこと …… 156
個性ある伯楽 …… 158
勲章 …… 160
老人入門 …… 162
獅子座の流星群 …… 164
ロシアをめぐる二つの話 …… 166
十二月八日 …… 168
飢えるネグロス …… 170
冬至 …… 172

昭和63年

「アウグスティヌス講話」 …… 176
赤松さんと水穂 …… 178
蕗の薹 …… 180
春浪と野球と …… 182
バートランド・ラッセル …… 184
幻の名著――「上高地」 …… 186
宇野重吉さん …… 188
わからずやのファインマンさん …… 190
ビキニ・デーに …… 192
潤間さんと二人の息子 …… 194
国造りの歴史 …… 196
アジア諸国の教育改革 …… 198
外国人の日本生活 …… 200
清明節に …… 202
「落城・足摺岬」 …… 204
「春のこころ」 …… 206
学術会議の声明 …… 208

藤原先生の講義…………210
「先生と私」…………212
人類を探求する…………214
旭川にて―悌二郎と碌山…………216
質的基準と量的基準…………218
明恵と女性の夢…………220
紫陽花（あぢさゐ）…………222
北京にて…………224
シナノキのことなど…………226
「商人と人間」…………228
禿山と志都児…………230
夏休み…………232
荷風と悪童…………234
「森の生活」…………236
盂蘭（うら）盆ばなし…………238
発哺―三好達治のこと…………240
DNA―プリント…………242
西尾先生と世阿弥と…………244
パグウォッシュ会議…………246
サハロフ博士…………248
生涯一書生…………250
岩波の「國語」…………252
ニールス・ボーアの手紙…………254
地球の病態…………256
「眠られぬ夜のために」…………258
「とりがなく」…………260
吉良義周のこと…………262
レトリックとロジック…………264

フィラントロピーの精神……266
世界子供白書……268
なつかしき風貌……270
けんか必勝法……272
広島の諏訪人……274

平成元年

昭和の終焉……278
科学と平和……280
井上増次郎先生……282
広島県大久野島……284
フンボルト会のこと……286
「我は福音を恥とせず」……288
池田先生とウグイス……290
綿内村のお上人……292
群して党せず……294
国会風景……296
若きアインシュタイン……298
ヘッセとその母……300

（カット＝柳沢京子
装　丁＝石川九楊）